

城北中夢プロジェクト ～私たちが描く未来のふくやま～

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力
他者とかかわる力 社会貢献力 自己形成力

単元について

1 生徒観

3学年は、男子135名、女子107名の合計242名である。本学年の生徒は、授業にまじめに取り組む生徒が多く、学校生活も全体的に落ち着いている。また、学年集会などで自分の思いを発表する機会を多く作り、どのような場面でも意見が言えるように取り組んできた。アンケート項目の①、②から分かるように自分の意見を伝えるということを抵抗なくできる生徒は多い。一方③、④から分かるように、外部へ自分の考えを発信するための、必要な情報を調べたり、調べたことをまとめたりすることに課題がある。

表1 第3学年次生徒アンケート

アンケート項目		よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
「課題発見・解決学習」	①授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	43.8%	28.8%	23.3%	4.1%
	②授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	56.2%	34.7%	6.8%	2.3%
	③授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしています。	24.7%	37.9%	31.1%	6.3%
	④授業では調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	28.3%	38.4%	26.5%	6.8%

(平成29年6月30日242名)

2 単元観

本校区は、4小学校を含む大きな学区であり、市内の中学校の中でも大規模校にあたる。また、市の中心部に位置しており、様々な文化施設や公共施設等も多く、材には恵まれた環境である。しかしながら、地域の良さや課題について考えたり、触れたりする機会があまりないという生徒の実態から、総合的な学習の時間において、「地域理解・社会貢献」の単元を各学年で設定している。

本単元は、各学年で設定している「地域理解・社会貢献」学習の最後の単元となる。第1学年では、地域の文化や歴史などを専門家のもとに出向いて調べることを通して地域への理解を深め、調べた事をポスターにまとめ、それを発信し地域へと返した。第2学年では、城北中学校区にある事業所での「職場体験」を経験し、勤労観や職業観についての理解を深め、事業所へ自分たちで考えた成果物を寄贈した。そして、第3学年では、「城北中夢プロジェクト～私たちが描く未来のふくやま～」というテーマのもと、身近な地域の課題を見出し、その改善策として新しい施設や制度、企画などを考え、自分達はそのプロジェクトにどのように関わっていけるかを提案する。そのことを通して、『主体的に学ぶ力』や『思考力・判断力・表現力』を育て、地域に深い関心を持ち、地域に貢献しようとする『社会貢献力』や『自己形成力』を伸ばしたいと考え本単元を設定した。

また、地域の課題に対してより完成度の高い提案ができるよう、現地調査を行ったり、小学校とも連携を取り児童や保護者にアンケートを実施したりして、地域の人々とも課題や改善策を共有しながら活動を進める。これにより、『他者とかかわる力』を高めることが期待される。さらに、改善策の提案では、福山市の担当者にも協力を仰ぎ、生徒の提案を評価していただいたり、専門的な見地からのアドバイスをしていただいたりすることにより社会参画の必要性を自覚させる学習とする。

3 指導観

指導にあたっては、自分たちの住んでいる街をより良くしたい、大人になったときに住みたいと思える街にしたいという生徒の願いを大切にしながら、自分たちだけでなく市民の思いを大切に、他の地域の人からも高い評価が得られる町になるように、客観的な課題を見出し、改善の方法を考えさせる。その過程において、地域の人々や福山市の担当者との関わりを通して、自分たちに寄せられる期待や思いに気付くとともに、自分たちも社会の一員であることに気付かせ、社会貢献や社会参画することへの意義や意味、喜びも実感させたい。

また、本単元の学習で、日頃自分の考えを積極的に発言することが難しい生徒も自ら考え行動する機会にしたいと考え、意図的に発表や意見交換の場を多く設ける。また協働的な学びを通して、個人またはグループ同士の活動がつながるように、他者の意見や提案にも批判的な視点を持って意見交流させたい。

本単元の学習は、3つの小単元で構成している。小単元1が『学校生活の改善策を提案しよう』、小単元2が『「未来のふくやま」を描こう』、小単元3が『私たちが描く「未来のふくやま」を発信しよう』である。ここで、小単元1を設定している理由は、本単元のテーマが大きいため、どのような過程をたどって自分たちの思いや願いを形にし、どこへどのように提案すればよいのかというところまでを生徒が十分に考えることが難しいと判断したためである。そこで、学校の身近な課題に着目し、その改善策を考え提案し、実行していくという学習過程をこの小単元1で仕組むことで、本単元全体の学習の流れや要点を理解し、小単元2以降の活動に見通しを持ち主体的に生徒が取り組んでいくことをねらっている。

また、学習過程の各場面においては、以下の内容に重点を置いて指導を行う。

「課題の設定」の場面では、同じ思いを持った者同士でより良い課題を設定させる。そのために、まず大まかな未来図を思い描かせ、それを形容詞を使い、「〇〇なふくやま」として発表させる。それをグルーピングし同じ思いの者を集めて、主体的に話し合える環境を作る。

「情報の収集」の場面では、必要な情報とその調べ方をグループ同士で交流し精選させる。

「整理・分析」の場面では、調査の結果を踏まえ、始めに設定した課題が適切であったかどうかを再考えさせる。また、調査した結果を伝えやすくするために図やグラフを利用してまとめさせる。

「まとめ・創造・表現」の場面では、作成した提案を一度地域の方にも評価していただくことで、自分たちでは考えることのできなかつた別の視点に気付き、提案内容を深めさせる。

「実行」の場面では、最終的な提案として福山市の担当の方に向け提案を行い、評価していただく。提案を行うことができないグループの提案書も担当者へ受け取っていただき、後日評価をしていただく。

「振り返り」の場面では、本単元の振り返りを行い、自らの学習の過程について自己評価や他者評価を行う。また、後半の単元「3年間の学びを形にしよう」の方向づけもする。

単元目標

単元を通して、福山の現状から課題や魅力を見出し、よりよい福山の未来の姿を考え提案することができる。

育てたい資質・能力及び態度における評価規準

資質・能力及び態度		評価規準
知識・技能	知	①福山の現状から課題や魅力を具体的に見い出すことができる。
思考力・判断力・表現力	思	①見出した課題の中から、必要な情報を抽出し、まとめることができる。 ②提案までを見通して、何をすべきかを計画することができる。 ③相手に伝えるべき内容を選択し、表現することができる。
主体的に学ぶ力	主	①自ら課題を見出し、課題を解決する方法を考えることができる。
他者とのかかわる力	他	①自ら課題を見出し、協働してよりよい方法で解決することができる。 ②仲間と話し合いながら、考えを深めることができる。 ③自分達が考えた提案内容を他のグループや外部の人を共有することができる。
社会貢献力	社	①よりよい福山の未来を考えて、発信することができる。
自己形成力	自	①課題解決のために、前向きに試行錯誤している。 ②単元の学習を進めながら、未来の福山を発信する意義を考えることができる。

単元と評価の計画

1 年間の指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	<u>「城北中夢プロジェクト ～私たちが描く未来のふくやま～」</u> (38時間)						<u>「3年間の学びを形にしよう」</u> (32時間)					
	地域理解・社会貢献						自己探究					

2 単元と評価の計画

小単元名	学習過程	時数	学習内容 学習活動	評価規準 (評価方法)	教科との関連
「学校生活の改善策を提案しよう」	課題の設定	1	○オリエンテーション(1) ・1・2年生で行ってきた、総合的な学習の時間の学習内容を振り返る。 ・生徒から、今後福山市に住み続けたいか、地元にはどんな課題があるかを交流する。 ・福山市制施行101周年を迎え、福山市が行っている取組等を紹介し、自分たちもわくわくするような未来のふくやま像をみんなで考え発信していく学習活動を行っていくことを確認する。	【知-①】 (行動観察) 【主-①】 (行動観察)	
		2	○今後の学習を設定する。(1) ・どのような学習の流れで進めていけばよいのが現段階では十分に生徒はイメージできていないため、校内における「学校の課題」に目を向け、その改善策を考え、発信する活動を通して、「私たちが描く未来のふくやま」の単元の学習過程に対してイメージを持つことを目標に学習を進めていくことを確認する。 ・城北中学校の生活で問題となることを想起する。 ・城北中学校の生活で不便なものや、問題のあるものを考え交流する。 ・自分たちが思う城北中学校の生活の問題点について、具体的要因を考える。 ・自分たちが考える城北中学校の生活の問題点には、要因を特定するには、情報が不足していることに気づく。 ⇒城北中学校の生活の問題点についてもっと調べ、より良いものしたい。		
		3	<例>「15分間の仮眠制度を導入しよう」 ○個人で調査する方法を考え、計画を立てる。(1) ・アンケートにするのか、聞きとり調査するのか、本やインターネットで調べるかなど、自分で方法を考え、調査する計画を立てる。		
	4	○調査を行う。(1) ・自分の計画をもとに調査を行う。	【思-③】 【他-①】 (行動観察)		
	5	○調査結果を整理し改善案を考案する。(1) ・調べた内容をもとにニーズに応えられる案を考える。 ・1時間の授業を使って実行できるようなものを考える。			
	6	○改善案をクラスで発表する。(1) ・班でそれぞれ発表し、班代表を選ぶ。 ・班代表がクラス全体で発表する。→お互いに評価する ・クラス代表として3つ選ぶ。			

	振り返り まとめ・創造・表現	7 8	<p>○学年集会でプレゼンテーションをする。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス代表がプレゼンテーションをする。 ・聞いている人が「やってみたい」と思うようなプレゼンテーションをする。 <p>○振り返りをする(1)</p>	<p>【思-③】</p> <p>【他-①】</p> <p>(企画書)</p>	
私たちが「未来のふくやま」を描こう	課題の設定	9 10 11	<p>○テーマをイメージさせる(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私たちが描く未来の○○なふくやま」を考える。 (例) いきいき・わくわく・どきどき <p>○課題を設定する(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマごとにグループを作る。 ・グループごとに、それぞれのテーマでの強みと弱みを出し合う。 ・出し合った意見の中からグループごとに提案する内容を考える。 〈例〉食のテーマで「新しいご当地フードを考案しよう！」施設のテーマで「～のような施設を作ってもらおう！」人を集めるで「～のようなイベントを開こう！」知名度で「～の良さを～を使って発信していこう！」など <p>○ホワイトボードに提案内容を書いて発表し、他グループの意見を聞く。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他グループからの意見は発表形式でも指名して意見を求めてもよい。 ・この時点で良い反応をもらえないものは現実的にも厳しいので再考する。 ・グループ内で共通のビジョンを持たせ誰もが語れるようにする。 ・一人一人が思い描く未来の福山の姿を絵に描く。 	<p>【思-①】</p> <p>【主-①】</p> <p>【他-②】</p> <p>(ワークシート)</p> <p>(グループワーク)</p>	<p>⇔【国語】</p> <p>ブレインストーミング</p> <p>⇔【社会】</p> <p>現代社会と私たちの生活</p> <p>⇔【英語】</p> <p>日本の文化紹介</p>
		12 13 14 15 16 17 18 19 20	<p>○自分たちの思い描く未来を一枚の絵にする。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で一人一人が描いてきた絵について思いを発表し、グループで一枚のイメージ図にする。 ・描いた絵は、文化発表会で展示したり提案したりする時に使えるようにする。 <p>○中間発表をする。(3)</p> <p>発表前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで中間発表を行うためにグループ内でゴールイメージを共有する。 ・すべての人が1回以上説明するのでしっかり共有させる。説明者の順番も決めさせておく。 <p>中間発表 (2分間説明, 2分間質疑応答, 1分間移動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明者は描いているイメージ図を使って①自分たちのアイデア②なぜこの絵にしたのか(根拠となるところ)を発表する。 ・説明しない人は他のグループに聞きに行く。 ・グループの席が埋まれば別のグループのどこに行く。全員が座って聞く姿勢をつくる。 ・同じグループの人がなるべくかたまらないようにする。 ・メモをとらせる。 <p>発表後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで意見を話し合い、イメージ図を仕上げていく。 <p>○提案を実現するために調べるべきことを考える。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福山の現状や市民の思いなど必要なものは何かを考える。 ・アンケート等をする場合は保護者や小学校に協力を求める。 ・調査をするならば場所や移動手段など詳しく計画する。 	<p>【思-②】</p> <p>【自-①】</p> <p>【他-③】</p> <p>(行動観察)</p>	<p>⇔【美術】</p> <p>デザイン・レイアウト・コラボージュ技法</p> <p>⇔【国語】</p> <p>ポスターセッション</p>

		21 22 23 24 25	○ゲストティーチャーの話を聞く。(2) ・ゲストティーチャーの話を聞いて調査計画を修正する。 ○調査する。(3) ・計画をもとに調査する。	【知-①】 (行動観察)	
	整理・分析	26 27 28	○調査結果を整理する。(3) ・グループごとに調査内容を整理する。 ・調査内容をもとに自分達が提案する内容を考える。	【主-①】 【思-①】 (行動観察)	⇔【数学】 情報を表やグラフを用いて整理する ⇔【国語】 話し合っ提案をまとめる
私たちが描く「未来のふくやま」を発信しよう	まとめ・創造・表現	29 30 31	○提案内容の案を考える。(3) ・発表方法をグループで決めて、構成を組み立てる。 ・発表原稿や資料を作成する	【思-③】 (グループワーク)	⇔【数学】 根拠をもって論理的に説明する
		32 33	○中間発表を行う。(2) 【本時】 ・司会者を決めて進行させる。 ・グループごとに発表を行う。 ※発表するときの条件 ①一人一役必ず役割を分担する。 ②イメージ図や資料(グラフや表など)を使う。 ・聞く人は発表の仕方や姿勢ではなく、提案内容について質疑応答ができるように発表を聞く。 ・質疑応答やアドバイスを行う。 ・発表後にグループで出た意見をもとに提案内容を修正する。 ・グループで話し合ったことを発表する。	【他-②】 (行動観察)	
		34 35	○発表原稿や資料を修正する。(1) ○提案に向けて、各グループで練習をする。(1)	【思-①】 (企画書)	⇔【国語】 説得力のある文章を書く
	実行	34 35 36 37	○自分たちが考えた提案内容を発表する。(4) ・各グループで発表をする。	【思-③】 【主-①】 【社-①】 (プレゼンテーション)	⇔【技術】 作品の表現 ・発信、プレゼンテーションソフトを使った提案
	振り返り	38	○振り返りをする。(1)	【自-②】 (ワークシート)	

本時の学習展開

1 本時の目標

「私たちが描く未来のふくやま」についての発表を通して、自分たちに何ができるか考えを深めることができる。

2 本時の評価

評価規準	評価基準	
仲間と話し合いながら、考えを深めることができる。 (行動観察) 【他-②】	A	他のグループのプレゼンテーションや自分のグループへの意見を聞いて考えを深め、提案内容を修正している。
	B	他のグループのプレゼンテーションや自分のグループへの意見を聞いて考えを深め、提案内容を再考している。
	C	他のグループのプレゼンテーションや自分のグループへの意見を聞いて考えを深めようとしている。

2 学習展開 (33限目/38)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
	学習活動		指導上の留意点		評価規準 (評価方法)	
導入	1 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ①この時間に付けたい力を確認する。 「説得力のあるプレゼンテーションをする。」 「他のグループのプレゼンテーションや自分のグループへの意見を聞いて考えを深める。」		①発表するときの条件を確認する。 ・一人一役必ず役割を分担する。 ・イメージ図や資料(グラフや表など)を使う。			
【本時のめあて】 「私たちが描く未来のふくやま」についての発表を通して、自分たちに何ができるか考えを深めることができる。						
展開①	2 各グループで中間発表をする。 ①発表する。 ②質疑応答やアドバイスをする。 ・質疑にはリーダーが答える。 ・記録係はホワイトボードに意見を記入する。		①聞く人は発表の仕方や姿勢ではなく、提案内容について質疑応答ができるようにメモをとりながら発表を聞かせる。 (聞く視点) ・提案内容に根拠があるか。 ・実例やデータはわかりやすいか。 ・どう関わっていくのかが伝わってくるか。 ②各班の発表に対して、気づきや意見を発表させる。			
展開②	3 出た意見をもとに提案内容を修正する。 ①ホワイトボードを見ながら、自分達の提案内容を修正する。 4 修正した内容を全体で共有する。 ①各グループで話したことを発表する。		①別の視点から見ると、様々な発見があったことを確認させる。		仲間と話し合いながら、考えを深めることができる。 【他-②】 (行動観察)	
まとめ	5 本時のまとめをする。 ①本時のまとめをワークシートに記入する。					